

2012年8月27日

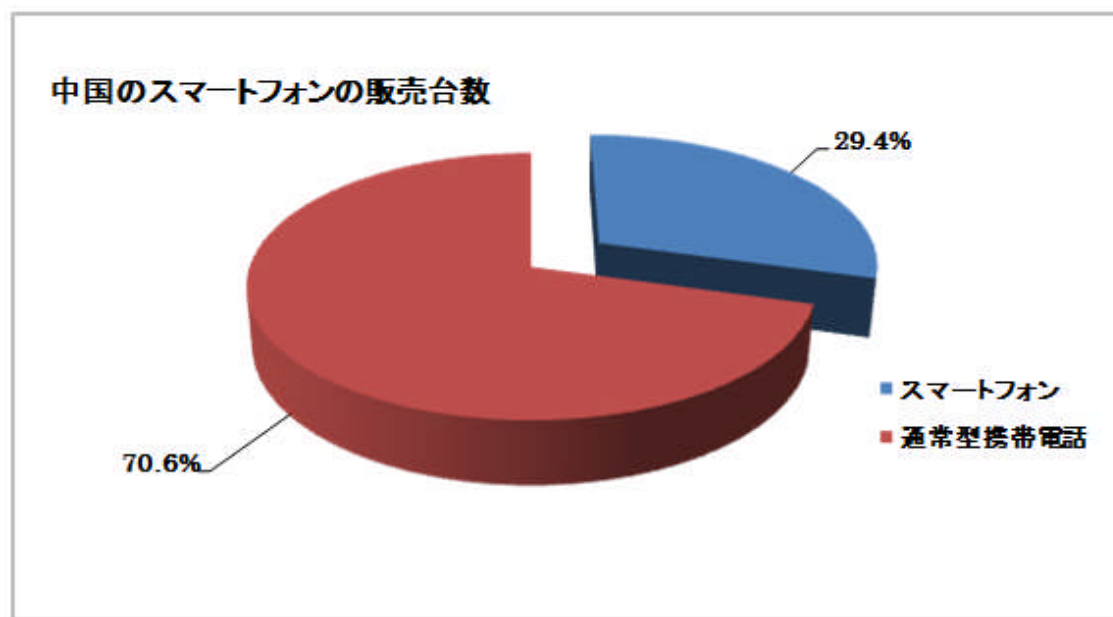
「数字」の影にある「市場」—中国スマートフォンの販売量から

スマートフォン利用の好調さやユーザー規模の拡大、「千元スマホ」ブームのなか、2011年の中国市場は高成長を維持。通年の販売台数は7,344万4千台と前年同期比で129.4%の伸びを実現した。

「数字」の影にある「数字」

中国のスマートフォン市場の高成長の影には普及率の急速な拡大がある。CCID（賽迪顧問）のデータでは、2011年末現在の販売台数は携帯電話市場の29.4%のシェアを占めている。

図1 2010-2011年の中国のスマートフォン販売台数のシェア



データ出典：CCID（賽迪顧問） 2012, 05

スマートフォン販売台数の急速な伸びも市場の競争構造に大きな影響を与えている。ノキアが依然トップを走るものの、市場シェアは昨年から大幅に縮小している。一方、中国国産ブランドの華為や中興が既にトップ5に顔を出し、今後はその地位をさらに固めるものと見られる。

図2 2010-2011年の中国スマートフォン市場の構造

順位	ブランド	販売台数(万台)
1	ノキア	2,634.5
2	サムスン	1,216.8
3	華為	795.3
4	中興通訊(ZTE)	544.5
5	モトローラ	489.1

データ出典：CCID(賽迪顧問) 2012, 05

「数字」の影にある「市場」

市場の大幅な拡大は大きなニーズの存在を意味し、今後ニーズ拡大の勢いはさらに増すと考えられ、スマートフォン市場は今後さらに競争が激化するだろう。市場の爆発的伸びは、携帯電話メーカーにとってはチャンスでもあり、課題でもある。こぞってハード面での「軍備競争」や、価格競争、マーケティング多元化で優位性を打ち出し、ブランドの認知度アップを図るなど、新たな市場再編の波がすでに起きている。またインターネットベンダーにとっては、モバイルインターネットユーザーの増加が続くことを意味することから、携帯電話市場に手を伸ばし、ユーザーのアクセスルートを確保しようと端末を抑えこもうとする動きが見え始めた。

CCID(賽迪顧問)の予測では、向こう3年のスマートフォン市場はなお急成長を維持する。主要因としては、携帯電話市場全体が徐々にスマートフォンへと軸足を移していること、価格が下がりが続いていることが挙げられる。購買ニーズは拡大し、買い替え比率はさらに増えるだろう。

■ 賽迪顧問股份有限公司 (CCID) のご紹介

CCIDは、中国「工業情報化省」傘下で中国最大のコンサルティング会社です。2004年には、中国のコンサルティング会社として初めて香港証券取引所への上場を果たしました。各国の企業に対し、市場調査やマーケティング戦略・販売チャネルの構築支援など多岐にわたるサービスを提供しています。現在は北京本社のほか、上海や広州、深センに支社、日本や米国、韓国、イタリアに事務所を置いてあり、世界的に高い知名度を誇っています。

■ 電子的または機械的な手段を問わず、本資料の一部または全部を無断で複製・転送等を行わないようお願い致します。また、当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に際してはお客様ご自身の判断にてお願い致します。

中国市場調査サービス



中国市場調査レポート

中国市場の今を知る
最新マーケティングレポート

2011-2012 年版中国市場調査レポート
224 タイトル。

詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/report.html



中国市場データ配信

企業別・地域別最新データの
定期配信サービス

ご希望分野のデータを定期的にお届けする
サービスです。

詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/data.html



中国市場受託調査

政府系コンサル企業による
ニーズ・目的に応じた調査

調査地域・分野を問わず、お客様固有の
ニーズに合わせて実施するカスタムリサー
チサービスです。詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/custom.html